

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢中央高等学校夜間制

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判定基準	評価データ	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものにするとともにICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。	○時間、あいさつ、携帯電話の使用等、良好な学習環境の向上を目指すとともに分かる授業を行い、授業の欠席の減少につなげる。	【成果指標】 学ぶ意欲をもち、学習にまじめに取り組もうとする生徒を増やす。	○授業がよく理解できると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。	B 93%	○多くの生徒が理解できていると答えている。今後は、さらに学習意欲を向上させるために、学習の見通しや成果を明らかにしながら授業を行っていきたい。 ○授業に取り組む姿勢や授業規律を繰り返し指導することで、落ち着いた学習環境を維持し、学ぶ意欲をもち、真面目に取り組もうとする生徒を増やしていく。
	○基礎的・基本的な学習内容を主体的に学ぼうとする意欲を向上させるため、アクティブラーニングの場を増やす。	【満足度指標】 ICT機器利用方法が改善されている。	○ICTが効果的に利用されていると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。	C 83%	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来のような対話型の授業の実施が難しくなっているが、この状況下で、どのようなアクティブラーニングができるか研究していく。ICT機器を利用した授業はすべての教員が実施しており、今後は効果的な使用方法へ改善できるように校内研修を行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		校内研修を行い、授業で積極的にICTを活用されており、先生方の工夫と努力を感じる。			
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善方針		さらに効果的なICT機器の活用を目指し、研修と実践を積み重ね、生徒にとってわかりやすい授業を展開するとともに、より深い学びとなる課題を工夫する。			
2 卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み生徒の希望進路を実現する。	○各教科の授業を始めとして、学校行事、LH、総合的な学習（探究）の時間において、有効なキャリア教育を実践し、卒業生全員の進路実現を図る。	【成果指標】 年度末には卒業生の進路先が内定する。	○卒業生徒の進路内定率が A. 100%以上である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 85%以上90%未満である。 D. 85%未満である。	A 100%	○進路研究のため、全日制の企業ガイダンスに参加した意欲的な生徒がいた。また、アルバイトを継続しながら自分の進路実現を目指す生徒がおり、ハローワークと連携して就職を決めることができた。進路実現に向けて系統的なキャリア教育を行っていききたい。
	○望ましい職業観と社会性の育成を図るため機会をとらえてキャリア教育・労働教育を進める。学校生活に適應出来ている未就業の生徒には就労体験を積極的に奨励する。また生徒の就労先を訪問し、生徒に声かけをする。	【成果指標】 就業している生徒の比率を高める。	○就業している生徒の合計が全生徒中の A. 80%以上である。 B. 70%以上80%未満である。 C. 65%以上70%未満である。 D. 60%未満である。	D 50%	○新型コロナウイルスの影響を受け、アルバイトを続けられず、やめた生徒が増えたのではないかとと思われる。学校生活に適應している未就業の生徒に対する指導を重点的に行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		卒業後を見込みながら、ハローワーク等とも連携し、幅広い系統的なキャリア教育を行っていくことを期待する。			
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善方針		生徒がキャリアを意識し、進路実現にむけて努力できるように、学校行事やLH、総合的な学習（探究）の時間にキャリアパスポートや外部講師を利用した系統的なキャリア教育を行っていく。			
3 規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	○生徒や保護者の思いを把握し、関係機関と連携して適切な支援を行う。また、学校からの情報発信として、さらなるウェブサイトの充実を図る。	【努力指標】 ウェブサイトの内容を定期的に更新することにより、アクセス回数の増加を図る。	○年間更新回数が A. 40回以上である。 B. 25回以上40回未満である。 C. 15回以上25回未満である。 D. 15回未満である。	B 30回	○学校のウェブサイト掲載記事を30回更新した。各課と連携を密にして、生徒・保護者のニーズに応えた情報が発信できるよう努めていきたい。その際、個人情報保護、著作権等の内容に十分配慮する必要がある。
	○オリエンテーション、LH、全校集会などをとおして生徒の規範意識の定着に努める。	【成果指標】 無断早退をさせない。	○無断早退の件数が A. 0件である。 B. 1件以上5件未満である。 C. 5件以上10件未満である。 D. 10件以上である。	B 3件3名	○早退時には、必ず届け出るよう声かけ、指導を行っている。無断早退した生徒に対しては、登校時に理由を確認し、教員に一言伝えることが、安心・安全上大切であることを理解するように指導を行っており、今後も継続していききたい。
	○いじめは、どのクラスでも、どの生徒でも起こりうるという基本認識に立ち、全職員が一体となっていじめを未然に防ぐよう意思疎通を図る。	【成果指標】 いじめを未然に防ぐ。	○いじめの件数が A. 0件である。 B. 1件である。 C. 2件である。 D. 3件である。	A 0件	○個性豊かで生育環境が異なる生徒が在籍しており、多くの生徒は他を思いやる優しい心を持ち、協力し合う良い雰囲気を保っている。入学時や集会時に、他の個性を尊重し認め合う心を育むよう指導している。 ○日頃から生徒理解のためのアンテナを高くし、得た情報を職員間で共有するとともに、個人面談の機会を増やし、生徒の些細な変化にも気づけるよう取組を継続していく。
	○心身の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣ができるよう進める。	【成果指標】 自らの健康管理を行うことができる。	○睡眠時間が7時間以上の生徒の割合が A. 70%以上である。 B. 50%以上70%未満である。 C. 30%以上50%未満である。 D. 30%未満である。	C 48%	○睡眠時間が6時間以上の生徒が85%であった。就寝時刻をあと1時間早めることを目標に全体に対して啓発を行っていく。また睡眠時間が6時間未満の数名の生徒を中心にアルバイトなど生活状況を考慮した生徒個別のアドバイスを実施しながら、睡眠の大切さを浸透させていく。
学校関係者評価委員会の評価		生徒が安心して学べる環境を教員が率先して作ろうとしている姿勢が伝わる。生徒と先生、先生同士の情報共有を効果的につなげたり、スクールカウンセラーとの相談しやすい環境づくりがなされている。			
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善方針		日々の連絡会や生徒支援委員会を通し、教員個々のアンテナを高くし、情報共有を密にすることで、生徒一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、生徒の悩みや心配事に迅速に対応できるよう取組を継続していく。			
4 スポーツ活動や文化活動ボランティア活動をおとした自主・自立・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。	○学校行事への積極的な参加を促し、生徒会活動への自覚を高める。	【成果指標】 生徒会行事の参加率が向上する。	○生徒の学校行事への参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。	—	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校行事がほとんど中止となったため評価できない。 ○次年度は感染予防対策を適切に行いながら、学校行事を行っていく。
	○部活動への積極的な参加を促し、活力ある生徒の育成に努める。	【成果指標】 部活動の参加率が向上する。	○部活動の実施日のうち、生徒の参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。	—	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種体育大会・文化的行事はすべて中止となり、評価できない。 ○次年度は感染予防対策を適切に行いながら、部活動等を行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		生徒のスポーツや文化活動を少しずつ行っているとよいと思う。			
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善方針		新型コロナウイルス感染症拡大防止策を適切に行いながら学校行事等を行い、生徒の自主・自立・助け合いの精神を育てていく。			
業務改善とワークライフバランスの推進	○ICT等を使って提示する教材の共有をさらに進める等の授業改善や業務の精選を推進する。定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方改革を浸透させる。	【努力指標】 業務の効率化を図るために、各自が整理整頓を行った。	○職場環境を改善することができたと感じた教職員が A. 80%以上である。 B. 70%以上80%未満である。 C. 60%以上70%未満である。 D. 60%未満である。	A 100%	○教員アンケートでは「そう思う」「ややそう思う」がそれぞれ50%であり、昨年度と同じ結果である。過度の効率主義にならないよう、本質や背景を見落とさないよう意識し、昼間制・各課・学年との連絡・連携をさらに密にしながら、さらなる業務改善に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境づくりが大変な年であった。お疲れさまとしか言いようがありません。			
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善方針		昼間制との連携や情報交換を密にしながら、各課・学年での連絡・連携を継続し業務の効率化を進めていく。			

